

令和2年度第1回京都市政策評価委員会（令和2年12月22日開催）摘録

事務局 (仲筋課長)	<p>ただ今から令和2年度第1回京都市政策評価委員会を開催いたします。京都市役所の仲筋と申します。よろしくお願いいたします。それでは、開催に当たりまして、計画調整担当部長の平野の方から御挨拶申し上げます。</p>
事務局 (平野部長)	<p>計画調整担当部長の平野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は年末の慌ただしい中、御出席いただきありがとうございます。</p> <p>新型コロナウイルスの感染が再び拡大している状況に鑑み、今年度の政策評価委員会は、オンライン会議ツール「Zoom」を用いたリモート開催とさせていただきます。</p> <p>これまでの審議会とは少々勝手が違いますので、手探りの部分もございますが、我々市役所も新しい生活様式に対応してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>さて、前回の委員会でも御説明いたしましたとおり、京都市では次期京都市基本計画の改定に着手をしており、その審議会の方も議論が進捗してきております。</p> <p>当初の予定では、秋頃に次期基本計画が議決されているはずでしたが、コロナ対応のため審議を一時中断したこと、ウィズコロナの視点を踏まえて更に計画案を練り上げる必要があったことなどから、現在は今年度末の策定を目指して検討を進めております。</p> <p>詳しい御説明は後ほど差し上げますが、先日パブリックコメントを終えたところで、今後、御意見を踏まえた最終案の答申、議会での議論が控えている状況です。</p> <p>次期基本計画案の議論と並行する形となりますが、今年度の政策評価委員会では、いよいよこの次期基本計画を踏まえた、新たな市民生活実感調査の設問や、客観指標について御議論いただくこととなります。</p> <p>本日と次回第2回の委員会においては、市民にとって分かりやすい設問について御議論いただく予定であり、特に市民感覚が重要になってくる領域です。皆様のお知恵をお借りし、より分かりやすい設問を設定してまいりたいと考えておりますので、是非とも忌憚のない御意見をいただきますよう、よろしくお願いいたします。</p> <p>今年度は、限られた時間の中で数多くの設問、指標について御議論いただくことになり、委員の皆様には御負担をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願いいたします。</p>

<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>以上、簡単ではございますが、開催に当たっての挨拶とさせていただきます</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>以後の議事につきましては、佐野委員長にお願いしたいと思います。</p> <p>令和2年度の第1回委員会ということで、3月以来の顔合わせになります。</p> <p>最初に私からいくつかお伝えしますと、「Zoom」での開催ですけれども、公開の審議会ですので、基本的にビデオはオンにさせていただいて、マイクについては、負荷がかかっているような場合等にはミュートにさせていただくなど、適宜御判断ください。</p> <p>次に、質疑応答等に当たっては、特に手を挙げていただく必要はなく、適宜御発言いただいても大丈夫ですが、タイミングがつかめない場合などは、「Zoom」の「手を挙げる」機能を使っても良いですし、実際に画面上で手を挙げていただいても大丈夫です。</p> <p>また、これまでと同様、議事録作成のための録音をしておりますので、御了承ください。</p> <p>それでは、本日の議題の1として、先程平野部長が言われたとおり、基本計画が新しくなるということがありますので、その審議会と、持続可能な行財政審議会、予算やお金に関わる審議会だと思っておりますが、まずこれらにおける検討状況について、事務局から御説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>－事務局から議題1「京都市基本計画審議会及び京都市持続可能な行財政審議会における検討状況」について説明（資料1－1，1－2）－</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>ありがとうございます。市の財政は厳しい状況であり、基本計画が新しくなるこのタイミングで、指標についても色々と検討の余地があるのではないかということでした。</p> <p>政策評価はサービスを提供すればするほど評価が高くなるという仕組みになりがちで、それ自体は問題のあることではないのですが、財政面やコスト面に配慮せざるを得ない状況にあっては、そのことも踏まえて検討する必要があるかと思えます。</p> <p>もちろん財政に配慮しすぎるのもこの委員会の在り方にそぐわないので、いくらかそういった面も踏まえて、という程度だと思います。</p> <p>今の件につきまして、もし御質問、御意見等があればお願いいたします。</p>

赤川委員	<p>これまで財政のことを意識せずに提言してきたので、なぜ今回財政に関する資料が添付されているのかと想像していたぐらいでしたが、財政の限りも考慮して、となると難しい問題になってくるかと思えますね。</p>
佐野委員長	<p>そうですね。なので、基本的には今までのものを踏襲しつつも、コスト面に配慮できそうなものは配慮する、100点満点でなくとも80点を取ればA評価とするといったことは、ものによっては考えられるかも、ということかと思えます。</p> <p>ただし、サービスの提供量を一方的に減らすという話につながりかねないところもあるので、少し慎重に議論した方が良くかと思えます。</p>
赤川委員	<p>市民感覚としてこの辺りは手厚くした方が良く、というような意見が出れば良いということですね。</p>
佐野委員長	<p>そうですね。特に、安全や健康に関わる部分というのは削らない方が良くところですし、一方、例えば、放置自転車であれば非常に数が減ってきた中でこれ以上無理しなくても良くかとも思えます。こういった、これは無理しなくても良くか、逆にこれは非常に大事というのを率直に御発言いただければと思えます。</p> <p>それでは続きまして、今年度の政策評価の流れとその結果、そしてその評価の改善状況ということで、議題の2、3を合わせて事務局から御説明をお願いします。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>－事務局から議題2「令和2年度政策評価の流れ」、議題3「令和2年度政策評価結果及び政策評価の改善状況」について説明(資料2、3-1、3-2)－</p>
佐野委員長	<p>ありがとうございます。まず、今年度は新型コロナのことがあったため、市民生活実感調査をしていないということでした。私としてはやってもらいたいところでしたが、もちろん市役所としての判断があるので、それ自体はもう仕方がないかなと。ただ、それはそれとして、来年度は是非やってもらいたいか、インターネットで費用を掛けずにやってはどうかとか、あるいは新型コロナのような状況があるからこそ生活実感の調査が大事ではないか、というような御意見も当然あるかと思えます。その他今色々御説明がありましたが、質問でも御意見でもあれば、率直に御発言いただければと思えます。</p>

白井委員	<p>今年度に市民生活実感調査をやらなかったことは仕方がなかったと思うのですが、こうした先が見えない中で対応していくためにも振り返りは大切だと思うので、何かそれに代わるような調査が必要ではないかと思いました。</p>
佐野委員長	<p>私もそう思います。政策評価として行うのか、ほかの形で行うかはさておき、コロナの中で京都市民がどう感じているのかということ自体は京都市役所にとっても大事なデータだと思いますので、今後少し検討していただければと思います。</p>
赤川委員	<p>やはり市民生活実感調査がないというのは、政策評価委員会としては結果の分析ができず、残念だと思います。先程佐野先生がおっしゃられたように、コロナで会社によってはテレワークが基本の時代なので、調査をどうしても紙でやらなければいけないということはなく、インターネットでやってみてはどうでしょうか。これまでから意見としてはあったものの、不正を懸念して見送られてきたかと思いますが、どうしても若者中心になってしまうと思いますが、そこまで緻密なものでもなくとも良いので、今の実態が捉えられるよう少し考えていただきたいと思います。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>インターネットによる調査に関しては、不正の問題というよりは、2つの課題があると考えております。</p> <p>1つは統計学的にどうかという観点で、どうしても厳密であろうとすると、住民票に基づく無作為抽出のように、標本を適切に抽出できるかという課題があります。ただ、内閣府の世論調査をはじめ、インターネットで調査している事例はあり、行政評価条例の「市民の満足度その他の市民の意識に関する情報の調査」という規定に対して、そこまで学術的なものを求めるのかという論点がありますので、引き続き議論が必要かと思います。</p> <p>もう1つはコストの観点で、何社か調べたところ、現在の130項目を調査するとなると、紙による調査と同じぐらいのコストが掛かる見込みです。これを踏まえ、130項目を全て調査するのか、何を調査したうえでどのように評価に反映するのかということや、また、手法の変更に伴う過渡期には紙を基本しつつインターネットを参考とするようなことなど、事務局で議論し始めているところです。</p> <p>もう紙の時代でなくなってきたというのも委員のおっしゃるとおりなので、コストと学術的なところ、日本学術会議がインターネット</p>

<p>深川委員</p>	<p>調査の問題点や有効活用に関して提言されていたりするので、そういったところも見ながら検討してまいりたいと考えております。</p> <p>民生や防災，子育てといった分野で，人が集まるものを指標とした場合，コロナの中ではなかなか評価しづらくなっていくということが勉強になりました。</p> <p>民生委員の地域福祉活動などができずに大変だったという声は聞くのですが，いざそれがなくなって大変だったという利用者側の悩みや相談の声が上がってきているかは分かりますか。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>政策評価制度からは浮かび上がっておらず，各局において対面以外で福祉サービスを届けるにはどうするかということも勘案して，施策，事業又はそのやり方を考えているところですので，我々としては新たな客観指標の検討の中で各局に確認していきたいと考えており，現時点で持ち合わせているものではありません。</p>
<p>深川委員</p>	<p>現時点ではそうですね。</p> <p>次の指標を考えるに当たっては，単純に集まるだけでない把握方法と，引きこもりや社会的孤立など，より把握が難しくなっているところの把握方法を考える必要があると感じました。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>ありがとうございます。その辺りは是非委員のお知恵も頂きたいと思えますし，各部局で良い指標を考えていただければと思います。</p> <p>また，もしかしたら市民生活実感調査で把握できるものもあるかもしれません。もちろん市民生活実感調査はかなりざっくりとした聞き方ですし，年齢などもバラバラなので，そこまで捉えられるかという問題はありますが，何らか工夫できる場所があればと思います。</p> <p>おそらく福祉なら福祉の政策サイクルの中で，定期的な振り返りなどがあるだろうとは思いますが，政策評価と直接リンクはしておらず，あまりバラバラなのも良くないということもあるので，もし各部局で利用者に対するアンケートを取っているのであれば，それを指標にするなどといったことも考えられるかもしれません。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>例えば子育て支援のように，政策や施策の評価結果が低いのに，市民生活実感調査の評価結果が高いというのは，どういう理由があるのかを教えてください。</p>

事務局 (仲筋課長)	<p>例えば、子育て支援の客観指標評価はc、市民生活実感評価はbとなっており、これは客観指標のうちファミリーサポートの登録者数が一時預かり等の充実により減少しており、e評価になっていることが大きな要因と考えております。</p> <p>この間、待機児童数がゼロの中でなぜc評価なのかという議論もしていただいております、子ども若者はぐくみ局とは、新しい分野別計画の内容も踏まえて、より適切な指標、今の取組に合った指標にできないかと議論しているところです。</p> <p>要約しますと、実感を感じていただく施策と、客観指標に対応する施策にずれがあるのかなというのが我々の見解でして、来年度からの評価に向けて修正していきたいと考えております。</p>
佐野委員長	<p>ありがとうございます。もっとうこういう指標の方が適切だということもあるかと思えますし、市民生活実感調査でもこういうことを聞いた方が良いのではということもあるかと思えますので、今のような御指摘はとても大事かと思えます。</p>
中井副委員長	<p>こういうときだからこそ、厳密性は追求できないものの意識の変化を探れるよう、簡易的にウェブ調査をできるだけ安い方法で試行してみるのも一つかと思いました。</p>
佐野委員長	<p>来年の調査時期にまだコロナがあまり落ち着いていない状況であれば、そういうことも考慮していただいて、必要があればまたこの委員会で議論しても良いかもしれません。</p> <p>客観指標だけでは少し議論しづらいというかこの委員会の面白さも今一つなので、来年度は是非お願いできればと思います。</p>
赤川委員	<p>今、市民生活実感調査をするとコロナの影響でガクッと評価が下がると思いますので、質問をどうしていくかが難しいですね。</p>
佐野委員長	<p>本当にそうですね。コロナがずっと続くわけではないので、コロナのことばかりを考えた質問というのもおかしいですが、全く勘案しないのもそれはそれで違うと思います。</p>
赤川委員	<p>コロナの影響を全く排除した質問を作るのも非常に難しいですしね。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>我々も市民の皆さんがどう思われているのかということ色々局面で捕捉するのに頭を悩ませています。例えば、経済系で言えば、どう</p>

	<p>いう景況感を持っておられるか、肌感覚のところは職員が各団体や企業に訪問したり、ヒアリングしたりして捕捉しているのが現状です。</p> <p>京都市のコロナ対策本部等としても、市民の皆さんの状況などは見ているものの、第3波を迎えていると指摘されている中、そういうことに特化したアンケートを行うというのは非常に難しいところだと思います。</p> <p>一方で、白井委員がおっしゃったように、こういった状況を総括する、振り返るといことは非常に重要ですので、我々が実施するものではないかもしれませんが、今後、本市において別途調査が実施されたり、それを踏まえて何らか客観指標に盛り込まれるようなことがあれば、今後の政策評価委員会でお示しできればと思います。</p> <p>ただ、政策評価を実施するという目的からは、市民生活実感調査に直接的にコロナに関する調査項目を設けるといのは違うと思いますので、基本計画の評価制度としての市民生活実感調査を作る作業は進めつつ、それを補うものが何なのかというのを並行して我々も研究し、全庁的な動きも見ながら、また委員会でも相談させていただければと考えております。</p>
佐野委員長	<p>そうですね。冒頭の予算、財政の話もありますし、また、国や他の自治体でも複数の部署が同じようなデータを集めているということがしばしばありますので、市民生活実感調査は基本的には基本計画にのっとった質問になるので難しいかと思いますが、他部署でやっているものもしいかせるようであれば、ぴったり合ったものにはならないかもしれませんが、市民生活実感調査なしでもそういったものの寄せ集めで対応できるかもしれません。もちろん今までどおりの調査ができればそれはそれで良いのですが。</p> <p>個人的には新型コロナのアンケートを別建てでやってみたら面白そうなのですが、財政的にそんな余裕はなさそうですしね。ちなみにほかの市町村で新型コロナの影響について市民アンケート調査をしている事例ってあるのでしょうか。アンケート調査だけではないですが、新型コロナが京都市全体にどういう影響を与えているのかということの調査そのものは非常に大事ではないかと思っています。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>今調べたところ、今年6月に内閣府がそういった調査している事例があるようです。</p>

佐野委員長	この調査を京都市独自でやろうと思うのももちろん予算的に大変かと思うのですが、このデータの京都市部分をもらえたりしないでしょうか。
事務局 (仲筋課長)	近畿の回収数は1,632とのことですが、確認してみます。
佐野委員長	<p>ありがとうございます。もちろん政策評価委員会で全てを行うということではないので、もしどこかである程度対応できるようなデータがあれば、それを政策評価委員会で使っていただくということも考えてみていただければと思います。</p> <p>それでは、議題の4、来年度以降の市民生活実感調査設問案ということで、事務局から御説明をお願いします。</p>
事務局 (仲筋課長)	－事務局から議題4「令和3年度以降の市民生活実感調査設問案について」について説明（資料4－1，4－2）－
佐野委員長	ありがとうございます。深川先生に事前に御相談しているとのことでしたので、もし深川先生から補足等があればお願いします。
深川委員	<p>2つの要素が1つの設問に含まれていて答えにくかったものもきれいに整理されていて、ざっと目を通させていただいた限り、非常に分かりやすくなっているのではないかと思います。</p> <p>そのうえで、新たに作成された設問や、余りにも簡略化し過ぎて逆に意味が伝わりにくくなっている設問などがあるかもしれませんので、その辺りは複数の目で見えていった方が良いと思いました。</p> <p>設問数というのが一番のネックだったと思いますので、それが減ったことは事務局の努力が見えると思います。</p>
佐野委員長	私もざっと見ただけですが、非常に分かりやすく、答えやすくなっていて良かったと思います。
白井委員	基本的には分かりやすくなったものの、今改めて見ていて分からなくなったのが、この生活実感を、自分、自分の周り、京都全体、どの範囲で答えたら良いかということです。例えば、人権・男女共同参画の設問2「自分に合った働き方を見つける機会がある」などは、その解釈によって回答が変わってしまうように思いました。

<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>もう1点、資料4-2の保健衛生・医療の設問1「利用しやすく頼れる医療機関がある」、市民生活の安全の設問3「しくみが整っている」というのは、実感ではなく事実関係ではないかと思うのですが、どのようにお考えでしょうか。</p> <p>市民生活実感調査の非常に難しい点でして、まず、27の全ての政策分野に関して、その回答者の範囲だけで答えていただくのは非常に難しいことから、京都のまちとして見たときに実感としてどうですかという問いかけになっているところです。</p> <p>また、資料4-1の2(1)のイで記載しているとおり、「回答者が第三者的な視点で直感的に判断できる形式」ということで、例えば、挙げていただいた医療機関が整っているかということ言えば、人口1人当たりの医療機関数などといったデータは出そうと思えば出せるのですが、市民の実感や満足度を調査するという観点で市民生活実感調査を行っていますので、回答者が間違いなくそうなっているかを調べてその正誤を客観的に判断するというよりも、実感としてどう思っているかを答えていただくという考え方になっており、そこはもう設問で工夫するしかないというのが事務局としての考え方です。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>第三者的に、一般的にそうだとあなたは実感していますかということを知るのがこの市民生活実感調査だというのが事務局の考え方ですが、一方、それゆえに答えにくく、分かりにくくなっているところもありますので、こういった設問に変えた方が良いのではないかということがあれば是非御示唆いただければと思います。</p> <p>例えば、調査票の最初に「自分自身と言うよりも、京都市全体としてどうなっているかということを知りたいとお答えください。」といったことを書くこともなくはないと思いますし、文字数もあるので悩ましいですが、設問の中に「京都市全体として」といったことを入れれば分かりやすいかもしれません。</p> <p>事実に関することは、回答者もおそらく自分で調べて答えるということはないと思いますし、そのときの印象で答えてくれるのではないかなと思います。</p>
<p>深川委員</p>	<p>今回の議論からは外れるかもしれませんが、コロナ禍で市長やトップのかじ取りが市民にも敏感に感じ取れるようになったと思います。そんな中で市民ニーズや市民の思いに沿ったかじ取りができていくのかということを知りたいという方法は、市民生活実感調査以外にもあるのでしょうか。市民が思っている課題に、トップが共感や認識を合わせた</p>

<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>うえで着手してくれたら、市民の満足度は結構上がっていくような気がします。</p> <p>いわゆる市民ニーズや満足度に関しては、政策評価で言えば、例えば幸福実感の調査をしているところや、各政策における評価結果を通して統計学的に全体的な観点で評価していると思います。</p> <p>一方で、日々刻一刻と変わっていく市民ニーズを把握して対応するという点で言えば、行政分野で言うところの公聴として「市長への手紙」という制度があり、インターネットや郵送等で受け付けたうえで、市長・副市長にも報告されるものになります。今後、デジタル化の中で、よりダイレクトに意見が届く制度も出てくると思いますし、もしくはコロナ禍における市民の行動変容というのはビッグデータ等でも可視化されてきていますので、そういったもので補いながら、刻々と変わるときに対応を意思決定しているということになるのかと思います。それらを中長期的な、大きな観点で補うのが政策評価の市民生活実感調査と考えております。</p>
<p>深川委員</p>	<p>よく分かりました。おそらく行政として様々な対策や取組をされている一方で、市民にはそれをなかなか感じ取れるところがないなど、お互いに食い違いがある部分もあるかと思しますので、窓口調査みたいなものできちんと把握できればと思った次第です。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>政策評価制度は、京都市が色々な政策を行った結果として、市民がどのように過ごしているかというのを確認するためのものなので、市民の声にきちんと市役所が反応してくれているかということを示しているわけではないのですけれども、何らかの形では評価結果に表れてくるとい印象を受けているので、そういう意味では間接的な手掛かりにはなるかと思っています。</p> <p>すごく細かいことなのですが、資料4-2の市民生活の安全の設問1について、「交通安全活動が盛んに行われている」と記載されていますが、姿1を見る限りでは交通安全活動には一言も触れていないので、これはぴったり合っていないように感じました。</p> <p>また、設問2についても、「万が一のことがあっても、お互いに助け合えるまちである」と記載されていますが、姿2を見ると、防犯活動や交通安全運動を通じてお互いの関係が深まって普段からお互いに助け合えるようなコミュニティづくりができるという話であって、犯罪や交通事故に遭った人が実際に助け合えるというのとは少し違うと思います。</p>

事務局 (仲筋課長)	<p>ありがとうございます。そういった御意見を頂戴し、各局にフィードバックしたうえで直していきたいと考えております。118項目もありますので、またじっくり見ていただいて、もし御指摘がございましたら後日でもメールで頂ければと思います。</p>
佐野委員長	<p>もう1つ細かいところになるのですが、文化の設問4について、姿に比べて設問が丁寧になりすぎていて字数が多いので、姿のタイトルそのままぐらいに簡略化しても問題ないような気がします。</p>
赤川委員	<p>「文化の担い手・支え手が育っている」だけだと一般の人には回答が難しいと思います。ただ50字を超えているので、もう少し短くされた方が良い気はします。</p>
佐野委員長	<p>そうですね。一般の人が聞くとおそらくすごく狭いものを思い浮かべてしまうので、伝統文化や芸術家に限らないことを伝えたいのだと思うのですが、確かにどう聞くかが難しいですね。もう少し検討いただければと思います。</p>
伊藤委員	<p>産業・商業の設問2について、具体的で分かりやすくなっているのですが、見る人が見たら引かかる部分があるように思うので、現行設問をそのまま使っても良いかと思います。</p>
赤川委員	<p>女性が例示の最初に来ていますが、女性の立場からすると、この御時世当たり前ではないかと思うので、わざわざ取り上げる必要はなく、多様な担い手という言葉で良いかと思います。</p>
佐野委員長	<p>そうですね。例示するとむしろ限定的に見えてしまうかもしれないので、多様な担い手ぐらいでも、大体何を指すかがイメージできると思うので、その方が良いかもしれませんね。</p>
中井副委員長	<p>少し話は戻ってしまうのですが、第三者的な視点からの主観的な判断というところで、市民生活実感調査の調査票のリード文が分かれば参考になるかと思うのですが、どうでしょうか。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>調査票には、客観的な視点で実感を、というところまでは書いておらず、記入例のところで「実感やイメージでお答えください。分からない場合は何も記入していただかなくて結構です。」と記載しているぐらい</p>

中井副委員長	<p>で、回答率を上げるために、なるべく文字数を減らすという観点から、あまり書いていないのが実情です。</p> <p>ありがとうございます。ここで難しく書いてしまうとおそらく調査に手を付けてもらえないと思いますので、これぐらいかと思いますし、多くの設問は、一般的に京都市は、というニュアンスになっていると思いますので、これで第三者的な評価が出てくるかとは思っています。</p>
佐野委員長	<p>ありがとうございます。厳密にやるとなると、そこをしっかりと説明するのですが、かえって混乱を招くかもしれないですね。</p> <p>具体的な設問を見ていただいて、これは自分のことを答えてしまうかもしれないから言葉を補った方が良いというものがあれば、また事務局にお知らせいただければと思います。</p>
白井委員	<p>もう1つだけ追加なのですが、生涯学習の設問1について、姿を見ると図書館や生涯学習総合センターが挙げられているのですが、設問では挙げられておらず、生涯学習において図書館は大きな位置付けを持つと思いますし、市民にとっても分かりやすいと思いますので、設問の中に追加された方が良いと思いました。</p> <p>また、姿のうち「多様な学びが提供され、」までの分しか設問に反映されておらず、その後続く「参加できるまちとなっている。」の部分まで含めないと、姿に対応しないのではないかと思います。</p>
佐野委員長	<p>ありがとうございます。「神社仏閣や企業」は関係機関との連携を意識して記載されていると思うのですが、やはりメインは図書館や生涯学習センターだと思いますので変えた方が良いと思います。</p> <p>また、参加できるようになっているというところまで記載すると、文字数もあるので難しい判断だと思いますが、前半の文字数を減らすことで対応できそうであれば考えていただければと思います。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>ありがとうございます。図書館の役割は非常に重要だと思いますので、検討させていただきます。</p> <p>もう一つの参加に関しては悩ましい点があり、学習機会が豊富にあるということと、参加できるまちとなっているということの2つを一緒に聞くことになり、資料4-2の2(1)のウ「回答者が判断に迷うような記載を避ける」というルールに抵触するため、どちらかにせざるを得ないと考えております。「あらゆる場で学んでいる」という姿なので、市</p>

<p>佐野委員長</p>	<p>民が学びに参加しているという方にフォーカスした方がより適切だと考えますので、少し検討させていただければと思います。</p> <p>私も、「学んでいる」と書いてあるので、そちらをメインに聞くべきだと思います。ありがとうございました。</p> <p>それでは、議題の5，令和3年度以降の政策評価票のレイアウトについてということで、前回の議論を踏まえて分かりやすいレイアウトを作っていたので、それについて事務局から御説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>－事務局から議題5「令和3年度以降の政策評価票のレイアウト等について」について説明（資料5－1～5－4）－</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>ありがとうございます。全体として大変見やすくなっていて良かったと思っています。データベースは実際に触ってみないと分からないところがありますが、これは使いながら改善していくしかないと思っています。皆さんから何か御質問、御意見等があればお願いいたします。</p> <p>少し気になったのですが、資料5－3の「イ」ほどのような位置付けなのでしょうか。評価の計算方法はおそらく決まっていると思うのですが。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>政策の評価になりますので、単純な計算だけでなく、客観指標と市民生活実感の両方を見たいうえで、政策判断も含めてどちらを重視して評価したかを示しております。事前に掛谷委員に御相談したときは、実線と点線の矢印だけでそれを示していたのですが、それだけでは分かりにくいとの御意見を頂きましたので、文字でも示すことにしたところです。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>なるほど。これが何を指すかが分かる見出しのようなものがあっても良いかもしれませんね。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>少し工夫してみます。ありがとうございます。</p>
<p>中井副委員長</p>	<p>まずこの政策評価のポイント版を見て、それから興味のある人はデータベースに遡って行って、細かくそれぞれの施策について原因分析や今後の方向性を見ていけば良いということで、非常に分かりやすく整理されていて、市民の方も活用しやすいのではないかと思います。今までこの政策評価の仕組みを理解するところがまず一つの山だったと思うので、これでインターフェイスが非常に良くなったと思います。</p>

<p>佐野委員長</p>	<p>後は、評価票の見方や質問がある場合はこちらということでリンクがありますが、施策評価シートにもリンクや施策番号を入力することで飛べるようになっているとより分かりやすいように思います。</p> <p>そうですね。もっともだと思いますので、また事務局で検討していただければと思います。</p> <p>政策評価は事務事業評価と異なり、政策や施策のレベルなので、お金の話は出てこないのが普通なのですが、もしデータベースを作るのであれば、予算との紐付けもあると更に分かりやすいと思います。個別の事業まで遡っていけば紐付けされていると思うので、無理する必要はないのですが。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>京都市における政策・施策の進捗確認方法は政策評価制度だけでなく、市会基本条例に定められている基本計画の実施状況報告というものもあり、今まさにそちらで予算・決算等、どこまでのデータを関連付けるかということを検討しております。そのうえで、定性的な実施状況報告と定量的な政策評価をどう関連付けられるかということも検討しておりますので、どこまでできるかは分かりませんが、見れば分かっていたような形にできればと思いますので、また御報告させていただきます。</p>
<p>深川委員</p>	<p>今回の改善のポイントは視覚的に分かりやすくということだったと思いますので、佐野先生が御指摘された資料5-3の□イについて、例えば重視する方の矢印を太くするなどといった方法もあるかと思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>参考にさせていただきます。ありがとうございます。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>点線だと何か特別な意味があるのかとってしまうので、太さを変えらるというのは面白いと思います。どこかに矢印の太さはどういう意味ですという説明を記載しても良いと思いますし、基本的には見て何となく分かれば良いと思いますが、できる範囲で検討していただければと思います。</p> <p>しかし、今回の変更は非常に見やすくなって画期的だと思います。ありがとうございます。</p> <p>それでは、議題の6について、事務局から御説明をお願いします。</p>

<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>－事務局から議題6「その他」について説明(資料6)－</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>ありがとうございます。全体を通して何か言い忘れなどはございますか。</p> <p>よろしいでしょうか。改めて資料を見ていただいて気になった点があれば、もちろんメールでお知らせしていただいても良いと思いますし、3月のときにまた議論するということもあり得るかと思います。皆さん長時間ありがとうございました。それでは、司会進行を事務局にお返しします。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>それでは、閉会にあたりまして平野企画調整担当部長から、一言、御挨拶を申し上げます。</p>
<p>事務局 (平野部長)</p>	<p>本日は長時間にわたり誠にありがとうございました。</p> <p>活発な御議論をいただき、役所の中の人間ではなかなか思い至らないであろう市民感覚での御意見を数多くいただきました。しっかり検討いたしまして、次回、第2回の委員会において修正案をお示ししたいと考えております。</p> <p>次回の委員会においては、市民生活実感調査設問の2回目の議論のほか、客観指標についても御議論いただいたうえで、委員会としての意見書をまとめていただくこととなります。</p> <p>引き続き、御苦勞をおかけすることになると思いますが、御協力をよろしく願います。本日はどうもありがとうございました。</p>